

Social Activity Report

Wellness

Otaru Chikko

Town

No.1



C_{reating} S_{hared} V_{alue} 経営の実践

市民や地域社会と共有できる価値の創造



ウエルネスタウン

小樽築港ウエルネスタウン構想
活動レポート 2021年7月

法人紹介

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部

北海道済生会

住所 〒047-0008
北海道小樽市築港10-1
電話 0134-21-2757



株式会社小樽ベイシティ開発

住所 〒047-0008
北海道小樽市築港11-5
電話 0134-21-5555



■事業概要

開業 恩賜財団 済生会 1911年5月
北海道支部 1924年7月

- ・小樽病院 378床(みどりの里120床)
- ・重症心身障がい児(者)施設 みどりの里
- ・小樽老人保健施設 はまなす
- ・済生会ビレッジ
地域ケアセンター
小樽市南部地域包括支援センター
居宅介護支援事業所はまなす
済生会訪問看護ステーション
福祉センター
発達支援事業所きっずてらす
就労支援事業所ぷりもぱっそ

■北海道済生会の特徴

- ・全国最大の社会福祉法人グループ
- ・急性期～回復期までの一体的な医療提供
- ・医療・福祉・介護のトータルケアサービス
- ・社会保障制度で対応困難な課題解決事業

■事業概要

開業 1999年3月

・ウイングベイ小樽

敷地面積	81,500㎡
延床面積	340,000㎡
物販面積	98,000㎡
総店舗面積	135,000㎡

■ウイングベイ小樽の特徴

～国内でも類を見ない特徴～

- ・国内有数の面積規模
- ・海が望めるロケーション
- ・大型駐車場(約5,000台)
- ・JR小樽築港駅直結(快速エアポート停車)
- ・施設内の70%が全国チェーン大手
のテナントが入居(イオン、ニトリ、ビバホーム)

小樽市について



社会構造の変化に対応したまちづくりが求められている

概要

小樽市は、古くから北海道有数の港湾都市として発展してきました。札幌市から約40kmの距離にあり、道路交通網では国道5号と札幌道により約1時間で結ばれています。鉄道では函館本線札幌駅から約30分、千歳空港から約70分の所要時間になっています。これに加えて札幌駅と小樽駅、小樽築港駅を結ぶ高速バスが概ね5～15分間隔で運行されており、札幌市内から日帰りで容易に観光する事ができます。

寿司屋や運河の街として知られ、観光都市としても人気が高く、毎年700万人以上の観光客が訪れています。市町村の魅力度ランキング調査ではトップ10にランクインする都市になっています。

人口

小樽市の人口は記録のある明治元年の2,230人から始まり、1964年（昭和39年）9月末の住民基本台帳人口で207,093人の最大値を記録した後は減少が続き、2021年（令和3年）5月末の住民基本台帳人口は111,738人となり、この57年間で95,000人を超える人口が減少しています。近年は市外転出による社会減少のみならず、死亡数の増加と出生数の減少による自然減少が拡大し、少子高齢化が加速度的に進行しています。

小樽市は地理的に急傾斜が多く縦長な地形であり、冬季は豪雪は地域でもあります。地域包括ケアシステムの構築を基本とした定住促進や域外からの流入をめざした新たなまちづくりが求められています。

歴史

小樽市は北海道では古い歴史を有しており、慶長年間には松前藩の商場（あきんば）が置かれていたとされています。明治になり蝦夷地を北海道と改めて本府を札幌に定めると、海の玄関口である小樽にヒトやモノが集まるようになりました。

1880年（明治13年）には北海道内初となる鉄道が手宮-札幌間に開通し、小樽港は道内各地への開拓民の上陸や物資陸揚げの港となり、昭和初期にかけて金融機関や船舶会社、商社などが進出して北海道経済の中心都市として発展しました。

戦後、ニシン漁の不漁や樺太の喪失、石炭需要の減少、道内他都市の港湾施設整備などによって卸商が衰退し、札幌市が北海道の中心都市として発展すると小樽市は衰退の一途を辿るようになりました。

「運河論争」を機に明治後期から昭和初期にかけての歴史的建造物を観光資源として見直し、観光都市として脚光を浴びるようになっていきます。



明治期の小樽

1. まちづくり構想と計画



「ウエルネスタウン構築に関する協定」

2020年7月まちづくり開始

北海道済生会と株式会社小樽ベイシティ開発（ウイングベイ小樽）は、「小樽築港地区におけるウエルネスタウン構築に関する協定」を締結しました。

この協定は、社会福祉法人として医療・保健・福祉活動を総合的に提供することを通じて、ソーシャルインクルージョンを具現化する済生会と、市民及び近隣生活圏に暮らす住民に豊かで健康的なライフスタイルを提案する「ウエルネスタウン」の構築を目指すウイングベイ小樽内の関係企業が連携することで、相互のノウハウや資源を活用し、健康的かつ安心な暮らしを守るまちづくりを推進することを目的としています。

小樽市における新たな価値の創造、地方創生への貢献を目指します。

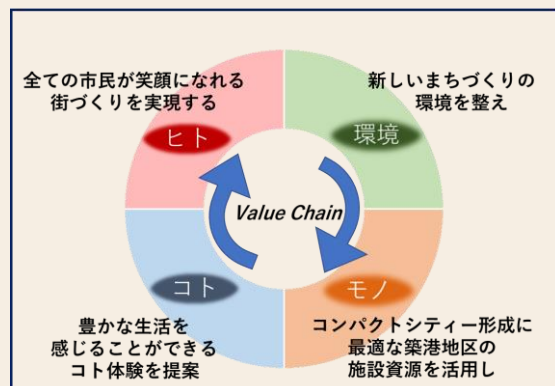


SDGsへの取り組み

「誰一人取り残さない」というSDGsの理念は、私たちが目指す「地域住民一人ひとりが健康で豊かな生活を実感できる「ウエルネス」なまちづくりと方向性を一つにしていることから、事業戦略としてSDGs計画を策定しました。

住民、企業団体等の多様なステークホルダーと連携・協働しながら、SDGsの視点を十分に意識した各種施策を推進していくことで、構想実現に取り組んでまいります。

～小樽の価値連鎖形成～



「ウエルネスタウン」構想の3つの取り組み

①**身体的・精神的に**
健康で豊かな
生活の提案

医療・介護・福祉の拡充

②**環境的に**
健康で豊かな
生活の提案

住民サービスの拡充と
生活利便性向上

③**社会的に**
健康で豊かな
生活の提案

人口減対策と
安心・安全なまち

3つの観点から**健康で豊かな生活 (=ウエルネス)** を定義

北海道済生会との協働取組により、ウイングベイ小樽を
拠点とした「**ウエルネスタウン**」を構築する

「ウエルネスタウンの定義」

ウエルネスタウン構想 3つの取り組み

【ウエルネスの定義】

ウエルネスタウンを実現するにあたり、まずは「ウエルネス」という言葉の定義を考えました。

私たちは、次の3つの観点からウエルネスを捉えています。



②**環境的に健康で豊かな生活の提案**

【行政サービスなどの拡充】

地域住民の住環境の充実や利便性を提供します。

ウイングベイ小樽の商業施設としての現機能に加え、市民にとってより便利な機能を拡充いたします。

公共性の高いサービス機能の充実、市のサテライトオフィスなど誘致活動に取り組みます。さらに、バラエティーに富んだ店舗構成、大空間を活かしたイベント開催で、施設のポテンシャルを「まちの再創造」のために最大活用いたします。



①**身体的・精神的に健康で豊かな生活の提案**

【医療・介護・福祉の充実】

小樽市の高齢化率は全道平均より高く、2045年には二人に一人が高齢者になることが推計されています。北海済生会と小樽ベイシティ開発は組織的な連携体制を構築し、ウイングベイ小樽内に市民のための健康・福祉ゾーン「済生会ビレッジ」を開設し、地域包括ケアシステムと地域課題解決のための事業拠点を設置します。

また、国の制度を活用した産学官連携による新たなヘルスケア産業の創出事業にも取り組みます。

③**社会的に健康で豊かな生活の提案**

【人口増加を意識した取り組み】

近年自然災害が頻発し全国各地で甚大な被害が発生していることを踏まえ、小樽ベイシティ開発のエネルギーセンターとウイングベイ小樽の広い空間を活かした地域防災拠点施設として必要な機能を整備し、安心・安全な暮らしを提供します。そのうえで、アクティブシニアを中心にあらゆる世代が「生涯活躍ができる」まちCCRC (Continuing Care Retirement Community) の構築を目指します。

また、地域外からの流入による人口減対策を図ることを目的とし、ウイングベイ小樽内にシェアオフィス、レンタルオフィスの整備も計画します。

2. 3つの取り組み活動 ①～身体的・精神的に健康で豊かな生活の提案～ 【医療・介護・福祉の充実】



ウイングベイ小樽5番街1階に「済生会ビレッジ」が誕生

2021年3月 済生会ビレッジ開設

北海道済生会が市民のための健康福祉ゾーンとして「済生会ビレッジ」を開設しました。済生会小樽病院に設置していた「北海道済生会地域ケアセンター」を移設し、地域住民にとって身近で気軽に相談していただける環境を整えました。

また近年社会問題化している発達障害支援に対して専門性の高いサービスを提供するため、発達支援事業所「きっずてらす」も新たに開設しています。

そのほか、済生会ビレッジは健康ステーション機能も有しており、済生会小樽病院の医師をはじめとした専門職と連携して、小樽市が抱える健康・介護予防上の課題改善に向けた様々な事業を展開いたします。

小樽市南部地域包括支援センター

地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関センターです。保健師、主任ケアマネージャー、社会福祉士等が専門性を生かした相互連携のもと、地域住民の生活を支援します。



今期実績

相談件数	介護予防プラン作成件数
1,494	5,160

居宅介護支援事業所はまなす

ご自宅等で暮らし支援を要する高齢者や障がい者が保険サービス等を利用できるよう、ケアマネージャーや相談支援専門員が必要な申請手続きのお手伝いやサービス計画の作成を行います。



今期実績

ケアプラン作成件数
2,160

訪問看護ステーション

看護師や理学療法士・作業療法士・言語聴覚士といった専門職が療養されている方のご自宅に訪問し、かかりつけ医の指示のもと、在宅での看護ケア（療養上のお世話や、診療の補助）やリハビリテーションを行います。



今期実績

訪問件数
4,680



地域共生社会の構築と地域課題の解決力強化

発達支援事業所

2021年3月 きっずてらす開設

地域共生社会の実現を目指した児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問、居宅訪問指導事業を行う複合型事業所を開設しました。変化の激しい社会にあって、発達に不安をかかえるお子さんが増えています。このような社会的背景と地域ニーズに鑑み、お子さんの発達段階における子育て支援を行ってまいります。

当事業所の特徴は、ウイングベイ小樽内の施設「ドリームランド イカロスの城」「スポーツ&スパリゾート小樽」様と連携し、これまでに類を見ない幅広く、ダイナミックな感覚統合訓練、支援サービスを提供いたします。



「きらりん」
児童発達支援推進のためのシンボルキャラクターです。「きっずてらす」で生まれ、大空を飛び回り子供たちの個性や無限の可能性に光を照らす妖精です。



今期実績 (2021.3~6)

登録者数	延べ利用件数	保育所等訪問
28	469	7

就労継続支援事業所

5月 ぷりもぱっそ開設

児童発達支援から就労支援まで、生涯にわたる支援体制を構築するため、済生会小樽病院内に就労支援事業所「ぷりもぱっそ」を開設しました。「きっずてらす」等で支援を受けたお子さんが、必要に応じて、なじみのある生活・支援空間で安心して就労作業を習得し賃金を得られる環境が整いました。

現在の作業内容は、病院清掃、クリーニング、植栽管理が中心ですが、この先はウイングベイ小樽と連携することで、幅広い業種の作業を請負いが可能となります。



今期実績 (2021.5~6)

登録者数	延べ利用件数
4	90



済生会ビレッジにおける地域課題解決事業

2021年5月 ウェルネス チャレンジ

健康で豊かな生活作りのための生活習慣改善プログラムを提案いたします。新型コロナウイルス感染対策を考慮した非集合型の新たなコミュニティ、改善プランをタッチポイントとした市民参加型の活動です。

現在のチャレンジコースは、「ウォーキングラリー」、「健康チャレンジ+10」、「キッズチャレンジ」の3つ。幅広い世代にご自身の身体状況や生活環境にあった取り組みをしていただきます。

また、済生会小樽病院のリハビリ専門職による活動支援も行います。

現在準備中

ウインベイ小樽のオーキングコースで手軽に運動していただけます。筋力や持久力の維持・向上、生活習慣病の予防・改善、体脂肪の減少、ストレス解消などの効果が期待できます。

また、ポールウォーキングを推奨しイベント開催等を行います。

現在、済生会ビレッジにて、ポールウォーキングの歩き方や効果を紹介中です。



5月からスタート

身体活動を増やして運動習慣を身につけていただくコースです。毎日+10分の運動を5週間継続し、健康寿命延伸活動にチャレンジしていただきます。



今期実績 (2021.5~6)

チャレンジカード配布数	チャレンジ達成者数
341	10

○チャレンジ達成者の声

3週目ころから習慣化できた。
体脂肪率が1%減った。
毎日の運動が習慣になった。
体重が1.4Kg減少した。

6月からスタート

お子様の健やかな成長をお手伝いするためのコースです。北海道教育委員会が示している望ましい生活習慣定着のための目安などにチャレンジしていただけます。



今期実績 (2021.5~6)

チャレンジカード配布数	チャレンジ達成者数
162	—

健康経営

を応援します！

協会健保 北海道
健康事業所宣言を行い
健康経営優良法人
実践 目指せ認定!!

実践では以下3つの取り組みを行います。

- ①協会けんぽ北海道支部の健康サポートを利用（例：保健師による心と健康に関する講話など）
- ②健診結果において再検査などの必要のある従業員に対し、医療機関の受診勧奨（受診管理など）
- ③独自の健康プラン実施 を《済生会がお手伝いします》
無料健康相談、出前健康講座、済生会ビレッジ「健康チャレンジ+10」の活用など

ウイングベイ小樽 済生会 Food Bank

寄贈・利用のお問い合わせ ☎ 0134-21-2757

～皆さんの思いや協力が誰かの笑顔につながる～
フードバンクは食糧支援を必要としている人々へ
つなぐ懸け橋として役割を發揮します。

ご支援をお願いいたします。

企業との連携を通じてウェルネスなまちづくりに取り組む

2021年6月 健康経営の取り組み支援開始

従業員の健康管理は、企業にとってますます重要な課題となっています。社会環境の変化や様々な要因から「健康で元気に働ける企業」という当たり前のことが現実しにくい世の中になっています。その現状からいっそう注目を集め政府が推進しているのが「健康経営」です。

しかし、健康経営に取り組みたいけど、なにかから始めればいいのか」「担当する職員を確保できない」など、取り組みを躊躇しているケースもあります。

私たちは、ウェルネスチャレンジなどの健康経営に必要なツールを提供し、取り組み支援を行います。

企業の成長

- 生産性の向上
 - 欠勤率の低下
 - 業務効率の向上
- 負担軽減
 - 傷病手当支払い減少
 - 健康保険料負担の抑制
- リスクマネジメント
 - 事故・不祥事の予防
 - 労災発生の予防
- イメージアップ
 - 企業ブランド価値向上
 - 社内、外的イメージアップ

健康経営に取り組むは企業に様々なメリットがあります。

今期実績（2021.5～6）

支援企業
3

フードバンク事業の流れ



現在、支援開始に向け準備を進めています。

6月 フードバンク立上げ

我が国の食品ロス量は年間600万トン、毎日10トントラック約1,640台分の廃棄が発生、事業系（製造や小売、外食業者から出る食品ロス）と家庭系（食べ残し、期限切れ等による廃棄から出る食品ロス）の割合は半々になっています。一方日本の全家庭に対する相対的貧困率は1885年から緩やかに増加基調にあり、2015年で15.6%となっています。

また、ひとり親家庭における相対的貧困率は2015年で50.8%に上っています。そのため各種福祉施設を通じた生活困窮者支援、子ども食堂など、食事面での支援を重視する「食を通じたセーフティーネット」に向けた取組が進んでおり、それら取り組みを補完する団体としてフードバンクの活動が注目されています。 9



市民の健康・福祉ゾーンとしての活動

2021年3月 ちょこっと健診

済生会小樽病院内に設置していた、ちょこっと健診券売器を済生会ビレッジに移設しました。

健診時間はおよそ15分、「忙しい」「病院受診は気が重い」などの理由から、健診の機会が遠のきがちな方や企業健診で「要再検査」結果の方々にお勧めです。

気になる項目だけを検査して帰宅、結果票は自宅に郵送されます。

検査コース項目例	今期実績
糖尿病が気になる	発券数 269件
コレステロールが気になる	
痛風が気になる	
おしっこが気になる	
前立腺がんが気になる など	

4月 相談支援事業

済生会の経験豊富な看護師による無料健康相談会を毎週火曜日実施しています。気軽に、買い物ついでに相談できるこの事業はとても好評です。相談内容は「お薬の服用に関すること」、「血圧に関すること」、「身体的症状から受診科の選択について」など様々です。

また、無料低額診療や医療費に関する相談会も実施しました。経済情勢の変化による離職により医療費の支払いが困難になったケースなどの相談支援を行っています。

今期はCOVID-19感染拡大により、2021年5月から6月中旬まで事業を休止しました。

今期実績 (2021.4~6)
相談件数 17

5月 福祉・キッズアート

キッズ、福祉エリアでアート展を開催しています。福祉アートでは重症心身障がい児者施設入所者の作品を展示しています。大胆な色遣いと既成概念にとらわれない構成的な表現の作品に、来場者から感動の声をいただいています。今後も無限の可能性と才能に光をあてていきます。

今期実績 (2021.4~6)
展示作品数 73



3. 3つの取り組み活動 ②～環境的に健康で豊かな生活の提案～ 【行政サービスなどの拡充】



令和2年度 老人保健健康増進事業

社会福祉法人 済生会 済生会支所北海道 済生会小樽病院

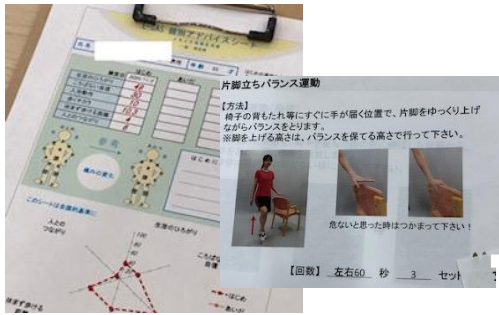
後志広域連合
Shiribeshi Region Union

関係町村

遠隔ICTを効果的に活用しながら、外部リハ職が関係町村と連携し、下記（例）について実証し、実施・事業化に向けた課題を抽出

- ① 地域ケア会議（個別会議・推進会議）への参加、アドバイス
- ② 通所介護事業者と連携した利用者（要支援者等）の生活機能評価・アドバイス
- ③ 総合事業対象者・要支援者等の自宅訪問によるモニタリング・生活機能評価、アドバイス（包括のケアマネや保健師等との同行）
- ④ 総合事業対象者・要支援者を対象とした訪問・通所による短期集中型の機能訓練プログラムの実施
- ⑤ 一般高齢者の通いの場への参加によるフレイル・フレイル高齢者等のスクリーニングや、個々の生活機能評価・アドバイス
- ⑥ 上記に関連した市町村の専門職からの随時相談・アドバイス対応

第8期計画における事業化（広域連合によるリハ職派遣事業、遠隔ICT活用促進など）



公益性の高い施設活用とサービス提供

令和2年度 地域企業イノベーション推進事業

北海道発「官民連携」「大学連携」集中型ヘルスケア産業創出プロジェクト（経済産業省）
ウイングベイ小樽と北海道済生会、イオン北海道小樽店、小樽市、小樽商科大学、地域のヘルスケア関連事業者等が連携し、同商業施設を新たなヘルスケアビジネスの社会実装フィールドとして活用可能性を検証し、同施設の新たなビジネスモデルの構築やビジネス創出を促進する実証事業を行いました。

令和2年度 老人保健健康増進事業

済生会小樽病院のリハビリテーション専門職との連携による後志管内町村の自立支援・重度化防止等の推進に向けた取組（厚生労働省）

済生会小樽病院リハビリテーション科と地域的理由によりリハビリ人材が不足している喜茂別町が連携し、ICTを活用した町民の自立支援・重度化防止に向けた事業の実証を行いました。

済生会小樽病院リハビリ職の地域ケア会議への参加とアドバイス、通所介護事業者と連携した利用者の生活機能評価等を実施し、事業化に向けた課題の抽出を行いました。

R3「たるトク健診」受診勧奨

小樽市民の死亡率は全国、全道に比較し高い状況にある一方で、がん検診や特定健診の受診率が低状況が続いています。市民の健康を維持・増進するためには、市民の健康意識と行動の変容が最も重要です。

そのため小樽市では、市の健康増進計画で特定健診「たるトク健診」の受診率向上に取り組んでいるところですが、済生会ビレッジでは、これら取り組みに貢献する活動を行っています。



2021年6月 COVID-19 ワクチン集団接種会場

ウイングベイ小樽を会場に、小樽市民の新型コロナウイルスワクチンの集団接種が6月26日から7月31日までの土曜、日曜日の計10日間行われる予定です。

3密が避けられる余裕のある広さや接種会場の設営に必要な設備が備わり、市民往来の利便性の良い当施設を有効に活用いただきました。



「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」事業の展開



複数の専門職による地域担当専門職を配置

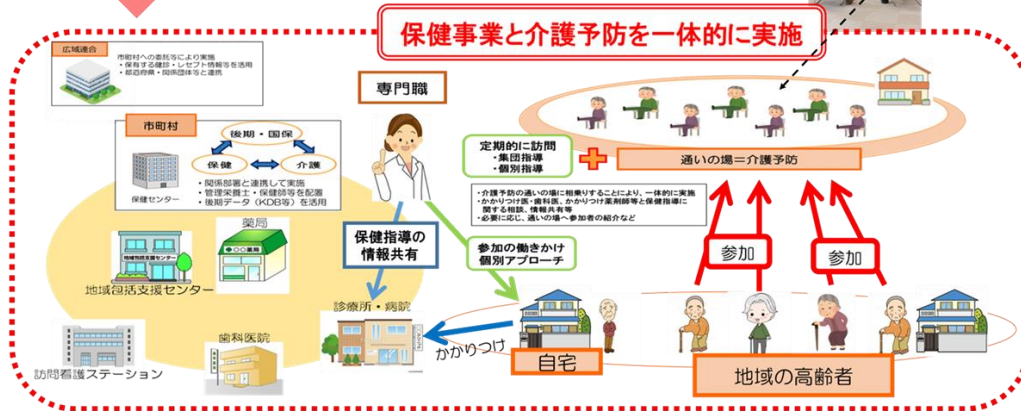
令和2年度老人保健健康道新等事業（厚労省）の応用展開しポピュレーションアプローチを実施

加えて、済生会小樽病院の管理栄養士、薬剤師による「低栄養防止・重症化予防の取り組み」や「重複・頻回受診者、重複投薬者、多量投薬者等への相談・指導の取組」を実施する。



通いの場での介護予防に最適な「済生会ビレッジ」

現状課題を踏まえ
国の施策として新たな事業が実施される



高齢社会対策の新たな取り組み

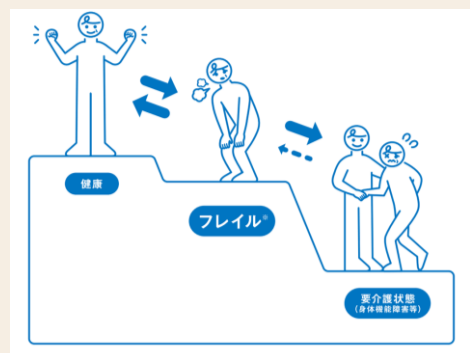
高齢者特有の健康障害とその課題に向けた小樽市の施策

高齢者は、複数の慢性疾患の罹患に加え、要介護状態に至る前段階であっても身体的な脆弱性のみならず、精神・心理的、社会的な脆弱性といった多様な課題と不安を抱えやすく、いわゆるフレイル状態になりやすい傾向があります。

そこで、高齢者の「保健事業」と「介護予防」の実施においては、その特性を踏まえた効果的かつ効率的で、高齢者一人ひとりの状況に応じたきめ細かな対応を行うことが必要とされています。

こうした課題を改善するため、経済財政運営と改革の基本方針2019では「高齢者一人ひとりに対し、フレイル等の心身の多様な課題に対応したきめ細かな保健事業を行うため、運動、口腔、栄養、社会参加等の観点から市町村における保健事業と介護予防の一体的な実施を推進する」と明示されました。これを受けて、各自治体では令和3年度から「保健事業」と「介護予防」の一体的な実施を本格的に行えるよう準備が進められています。

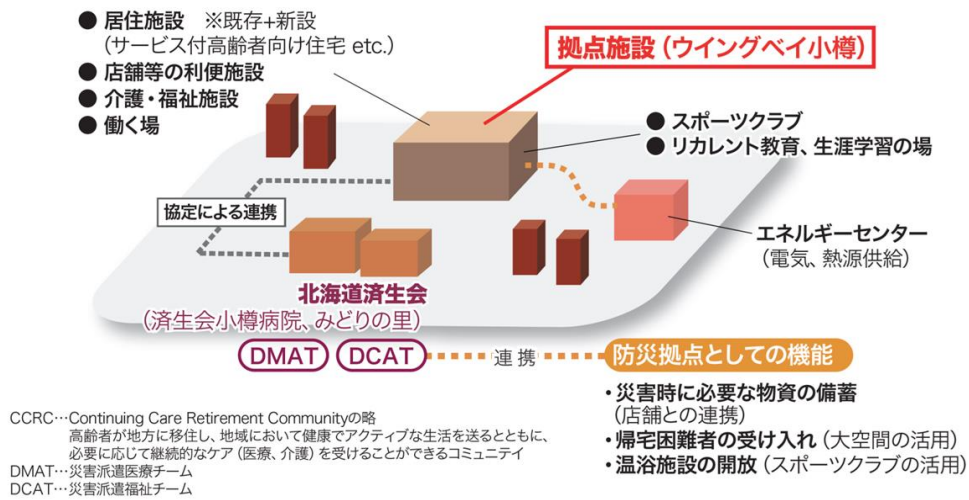
小樽市においては、令和3年10月から北海道済生会がこの事業を受託し、市民の通いの場「済生会ビレッジ」で介護予防事業等を行います。



フレイルとは、わかりやすく言えば「加齢により心身が老い衰えた状態」のことです。しかしフレイルは、早く介入して対策を行えば元の健康な状態に戻る可能性があります。高齢者のフレイルは、生活の質を落とすだけでなく、さまざまな合併症も引き起こす危険があります。

3. 3つの取り組み活動 ③～環境的に健康で豊かな生活の提案～ 【人口増加を意識した取り組み】

小樽築港版ニューCCRCの展開



安心・安全で多様な住まいの提供により『生涯活躍のできるまち』を実現

「ウェルネスタウンの最終目標」

小樽築港版ニューCCRC構想

私たちのまちづくり「ウェルネスタウン構想」は、小樽築港地区既存の資源を活用し、高齢者が健康な段階で地方に移住し、地域において健康でアクティブな生活を送るとともに、医療・介護など継続的なケアを受けられる生活共同体「小樽築港版ニューCCRC」の実現を最終目標としています。

地域住民が健康で豊かな生活を送れるまちを目指すことは勿論のこと、就労者人口の増加や首都圏や札幌、その他の地域からの移住を促進して定住人口の増加の取り組みも行っていきます。

地方創生の取り組み

東京への人口集中による地方の人口減少を是正し、日本の活力向上を目指す一連の政策が「地方創生」です。地方創生のキーワードとなるのが、「まち」「ひと」「しごと」です。継続的な雇用の創出や有効な人材活用といった「しごと」と「ひと」の好循環により、地域の経済を発展させることができます。そして、それを支えるには、働きやすい、住みやすい「まち」の活性化が不可欠なのです。

私たちが目指す「ウェルネスタウン構想」には、これら要素が含まれています。3つの要素がうまく作用しあうことで、「ウェルネス」が実現し「地方創生」につながると考えています。

2020年10月 内閣府地方創生推進事務局訪問

地方創生推進交付金・地方創生拠点整備交付金制度の事業計画と採択要件、申請方法、交付金額や地方自治体の財政負担の確認と相談のため、内閣府地方創生推進事務局を訪問しました。

私たちが目指す「ウェルネスタウン構想」は、採択要件に適合することが確認されましたが、事業申請には自治体の計画に位置付けられ、自治体から申請する必要があります。

私たちの構想と具体的事業活動が地域で評価され、小樽市において地方創生交付金が活用されるよう、引き続き取り組んでいきます。

地方創生4つの基本目標

- ・「稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする」
- ・「地方とのつながりを築き、地方への新しい人の流れをつくる」
- ・「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」
- ・「人が集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」

「ウェルネスタウン構想」は、地方創生4つの基本目標に一致した、まちづくり事業です。



ウェルネスタウン構築に必要な地区計画

2020年12月 横断歩道求めた陳情採択

定例小樽市市議会で、ウイングベイ小樽と済生会小樽病院をつなぐ信号機付き横断歩道増設を求める陳情が、全会一致で採択されました。

平成25年に済生会小樽病院が築港地区に移転したことで、同地区では病院と近隣施設を往来する住民が増加しています。しかしながら、施設間の道を渡るための横断歩道はウイングベイの主な入り口からやや離れた場所に1か所しかなく、斜め横断などの危険横断が発生しています。

また、高齢者や障がい者にとっての移動の安全性や利便性向上も課題となっています。

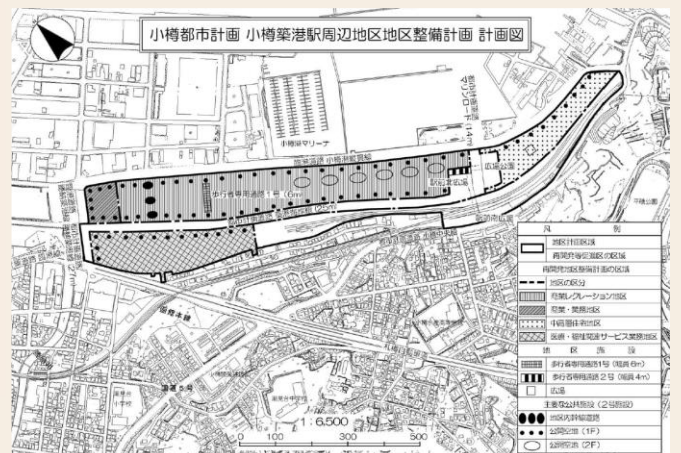
平成18年に施行された「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律「バリアフリー新法」では、高齢者、障がい者等の自立した日常生活および社会生活を確保することの重要性にかんがみ、「特定旅客施設又は特別特定建築物（病院福祉、物販店、ホテル、劇場施設等）に該当するものがおおむね3以上あること、かつ、それらの間の移動が通常歩行で行われる地区」のバリアフリー化の促進を規定しています。

当地域においても高齢者や障がい者の目線に合わせた安全対策が必要とされています。

2021年5月 地区計画変更申請

現在、小樽築港駅周辺の地区の地区計画は、「商業歴レーション地区」に指定され、親水アメニティ拠点と連携を図り、広域的な文化・交流・生活サービス機能に加え、公共性を持った緑地・にぎわいのある空間整備を行い、ウオーターフロントを活かした緑豊かで潤いのある市外地の形成を目標するとされています。

私たちが目指す「ウェルネス」なまちづくりでは、住居や医療福祉関連事業や教育機関等の誘致も進めていることから、事業実現に向けた地区計画の変更申請を行っています。



4. まちづくり連携と協働



ウエルネスとヒストリカルなまちづくりの融合

2021年5月 歴史文化を活かしたまちづくりとの連携・協働

令和2年9月8日、小樽市塩谷桃内地区において「塩谷桃内まちづくり推進委員会」が設立・発足しています。

同委員会は、「小樽市歴史文化基本構想」を意識し、塩谷桃内地区に残された歴史的建造物や船絵馬など、多様な暮らしの背景を持つ文化遺産の保存と再生又は活用を通じたまちづくりを進めています。

小樽市は多様かつ豊かな文化遺産有するまちです。私たちが進めるウエルネスタウン構想では、歴史文化のまちづくりと連携・協働して小樽の魅力を発信することとしています。

塩谷桃内地区住民の健康で豊かな生活づくり活動を推進するため、済生会ビレッジが行う健康づくりや生活支援活動を連携地区に出向いて行います。またウエルネスチャレンジ事業の活用方法を紹し、地域住民の健康づくりをお手伝いします。



地区住民の健康と福祉向上活動の象徴として、小樽塩谷国道線の一部を「なでしこロード」と設定し、「なでしこ」の花を植栽しました。この「なでしこ」は済生会の紋章でもあることから、記念に済生会職員が種から育てた苗も植えています。

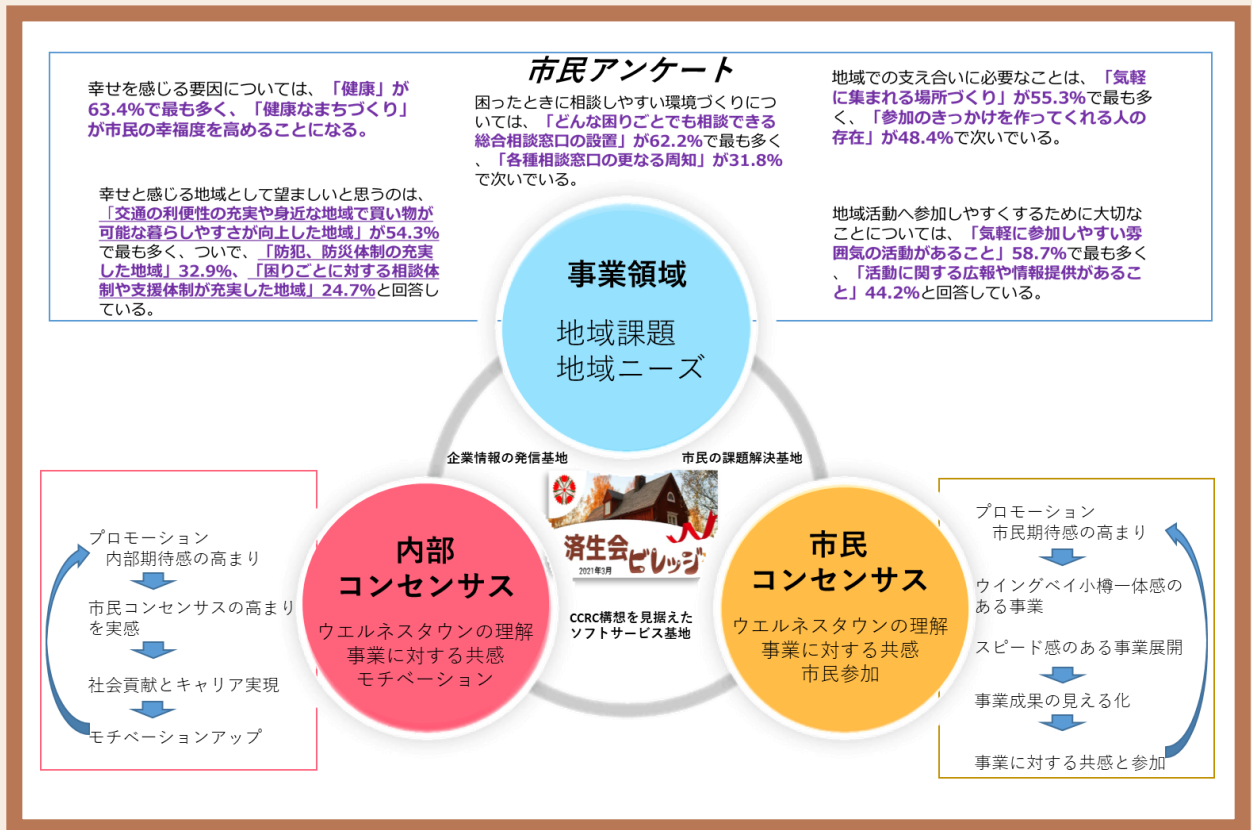


市内のまちづくり活動を行う団体と連携し、まちづくり研究や人材育成に取り組みます。

具体的には、内閣府の補助事業「地方創生カレッジ」事業に取り組み、地方創生に必要な人材を育成・確保します。



5. 市民の声に応える計画策定と広報活動



市民の声はウエルネスなまちづくりに期待している

地域課題解決につながる事業

第1期小樽市地域福祉計画・小樽市地域福祉活動計画「たるたる支え愛ぷらん」（令和3年3月）では、アンケート調査から見えた小樽市の現状と題し、「しあわせな地域づくりのための市民アンケート」を公表しています。

このアンケート結果から、私たちが進める「ウエルネスタウン」構想事業は市民の期待に応えるものであること、済生会ビレッジで行われる事業が市民から共感いただける事業であることが見えてきます。

まちづくり活動の目的をウイングベイ小樽ホームページに掲載

ウイングベイ小樽は、ウエルネスタウンへ再創造します。

私たちは、身体的、精神的、環境的、社会的に健康で豊かな生活をお手伝いします。

- ・豊かな自然に恵まれ地震災害の少ない小樽や後志の良さを発信することにより、お客様に地域の特性、唯一性を提案します。
- ・アクティブシニアや子育てファミリーには就業環境やコミュニティ作りの場を、子どもたちには新たな経験、体験の場を提案します。
- ・館内の施設全体を趣向させ、健康を基本としたライフスタイルを提案します。
- ・行政、医療機関および周辺企業との連携のもと、地元のみならず安心、安全、便利を提案します。

事業広報による共感の高まり

SNSなどを活用し、ウエルネスなまちづくりの活動状況やイベント情報などの発信を開始しました。

「北海道済生会ウエルネスタウン計画Facebook」の投稿を見たユーザー数を表すリーチ数は、増加傾向にあり、直近では一投稿当たり1,500~2,000リーチとなっています。

北海道済生会ウエルネスタウン計画Facebook



今期実績（2021.6月時点）

フォロワー数	投稿数	リーチ数
90人	90件	80,506

6. SDGs活動報告



事業戦略で貢献する目標

こどもの虐待防止(件)	9		17,053	無料低額診療(件)
			61	生活物資支援(品)
			370	生活困窮相談支援(件)
防災拠点計画進行中			9	食料物資支援(食)
フードバンク事業準備中			503	ウエルネスチャレンジ参加(件)
			17	無料健康相談(件)
包括支援総合相談延件数(件)	1,494		469	児童・学童発達支援(件)
地域版介護予防教室支援(件)	3		7	保育所等訪問指導(件)
オレンジかふえ参加(件)	301			看護専門学校誘致活動
障がい者アート等出展(件)	73		5.6(男性)	育児休暇取得率(%)
障害者雇用率(%)	2.8		85.0(女性)	短時間勤務制度利用者(名)
			46	保育施設支援利用者(名)
ヘルスケア創出事業件数(件)	3		15	就労支援(件)
令和2年度地域企業イノベーション推進事業			650	健康経営従業員(名)
令和2年度老人保健健康増進事業				
令和3年度地域・企業共生型ビジネス導入・創業促進事業				



5 ○発達支援連携

(株)ソプラティコ、(株)リスペクト

○フードバンク連携

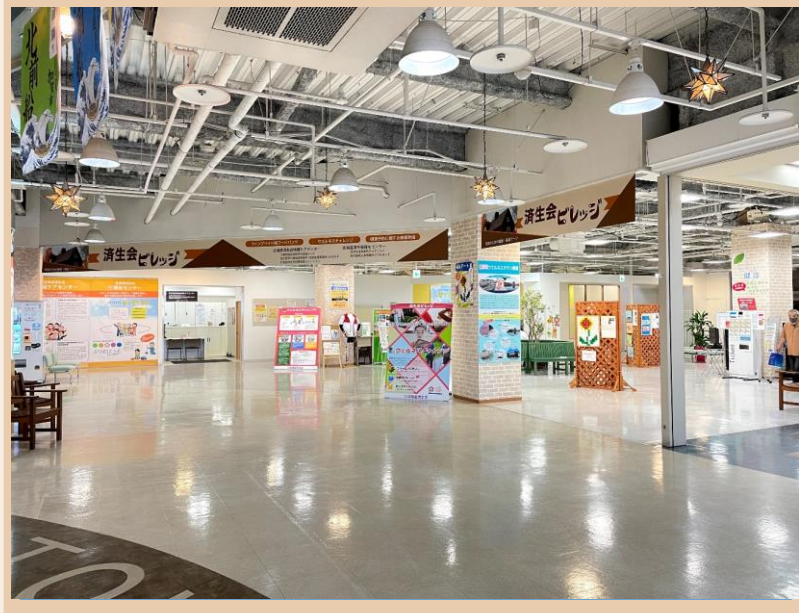
北海道銀行小樽支店、キリンビバレッジ

○まちづくり連携

塩谷桃内まちづくり推進委員会

7. 報道等

- 2020年07月01日 北海道新聞 「済生会・イオン・OBCがウエルネスで連携協定」
- 2020年12月18日 北海道新聞 「医療・介護誘致にかじ」
～ウイングベイ小樽「再生」3年～
- 2020年12月18日 北海道新聞 「横断歩道求める陳情採択」
～ウイングベイー済生会病院間～
- 2020年12月18日 北海道新聞 「ウイングベイに介護拠点を集約」
- 2021年03月01日 小樽ジャーナル 「きめ細かなサービス 済生会ビレッジ開所」
- 2021年03月02日 北海道新聞 「ウイングベイに済生会ビレッジ開所」
～健康増進、介護柱に再生へ～
- 2021年03月03日 北海道新聞 「ウイングベイ前向き」
～小樽看護専門学校の移転先候補～
- 2021年03月12日 北海道医療新聞 「済生会小樽 市民の健康づくりへ」
～商業施設内に福祉拠点～
- 2021年03月15日 朝日新聞 「北海道済生会が福祉アート展」
～小樽市民の健康福祉ゾーン済生会ビレッジで～
- 2021年03月23日 北海道ヘルスケアイノベーションセミナー
～小樽築港エリアを中心とする“ウエルネスタウン構想”～
- 2021年03月25日 介護新聞 「北海道済生会支部 市民の健康づくり拠点」
～商業施設内に済生会ビレッジオープン子育てサポートと就労支援も～
- 2021年03月30日 織研新聞 「ウイングベイ小樽、済生会と協定」
～ウエルネスタウンへ街作り担う 第一弾介護の相談窓口～
- 2021年04月15日 北方ジャーナル5月号
～健康と福祉をキーワードにウイングベイ小樽を再生へ～
- 2021年04月27日 「月間プロパティマネジメント」2021年5月号
～商業施設のウエルネス増進策「ウエルネスタウン構築」～
- 2021年05月31日 北海道新聞 「塩谷神社前「なでしこロード」に」
- 2021年06月08日 北海道新聞 「昼間定時制 働く学生確保」
～小樽新看護学校 市が方針～
- 2021年06月15日 北海道新聞 「ウイングベイのサービス +10分の運動で無料」
～道済生会 今月は抽選で20人に映画券～
- 2021年06月03日 ぶらんとマガジン社 北海道医療最前線8月号
～北海道済生会が創るソーシャルインクルージョン～
- 2021年06月30日 日経新聞 「旧マイカル小樽、福祉拠点到」



編集 北海道済生会 済生会ビレッジ
ウイングベイ小樽5番街1階

